

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520473

研究課題名 (和文) 「リスニングストレス」の理解阻害効果の解明とその対処方略の開発に関する基礎的研究

研究課題名 (英文) Basic Research into Debilitating Effects of “Listening Stress” and Coping Strategies Against It

研究代表者

野呂 徳治 (NORO TOKUJI)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号：90344580

研究代表者の専門分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：リスニング，ストレス，不安，理解阻害効果，対処方略，英語，第二言語習得，外国語教育

1. 研究計画の概要

本研究は、第二言語／外国語としての英語のリスニングプロセスにおいて情意的側面が認知的側面に与える影響とそのメカニズムの解明を目的とし、以下に掲げる項目を具体的研究内容とする。

(1) 「リスニング不安」に代わる構成概念としての「リスニングストレス」の導入

(2) 「リスニングストレス」の理解阻害効果及びそのメカニズムの解明とその対処方略としてのリスニングストラテジーの開発

(3) 「リスニングストレス」の対処方略を中心とするリスニングストラテジーの第二言語／外国語としての英語教育への導入による学習者中心のリスニング指導への転換

2. 研究の進捗状況

上述した研究内容のうち、研究 3 年目（平成 21 年度）終了時において(1)及び(2)について以下の成果を収めた。

(1) 「『リスニング不安』に代わる構成概念としての『リスニングストレス』の導入」については、心理的ストレス理論に基づきリスニングストレスの理解阻害効果のメカニズムに関する理論構築を行い、その上で難易度が異なるリスニング材料を組み合わせたリスニング課題を設計し、リスニングストレス生起実験デザインを開発した。このデザインに基づいて、米国の大学に在籍する日本人留

学生を対象にリスニングストレス生起実験を行い、収集したデータを分析した結果、リスニングストレスの高まりによる全般的なリスニング理解阻害効果が観察され、本実験デザインの妥当性及び可能性が示されると共に、リスニングストレスの理解阻害効果の基本的なメカニズムが解明された。

(2) 「『リスニングストレス』の理解阻害効果及びそのメカニズムの解明とその対処方略としてのリスニングストラテジーの開発」については、まず、(1)で開発したリスニングストレス生起実験デザインに改良を加え、波状的に繰り返されるストレスの生起とその持続効果の観察に成功した。また、適及的発話思考プロトコル分析を導入し、被験者の内省データの分析を行った結果、リスニングストレスの循環的メカニズムの仮説が支持され、リスニングストレスの理解阻害効果のメカニズムについてより詳細で心理的実在性のある記述がもたらされた。さらに、ストレス対処方略としてのリスニングストラテジーの開発にあたっては、リスニングストレスがリスニングストラテジーの援用にどのような影響を及ぼしているのかについてデータ収集・分析を行った結果、「背景知識の活用」等のより高次の認知処理が要求されるストラテジーに阻害効果が観察された。この結果は、認知処理の種類に応じた阻害効果のうち、特に、「推測」、「一般化／応用」の認知処理に阻害効果が顕著に見られたことと密接に関連していると考えられる。すなわち「背景知識の活用」はこれら 2 つの認知処理

には不可欠なストラテジーであるからである。さらに、この結果は、心理的ストレス理論で提案されている認知処理の阻害におけるワーキングメモリの関与に関して、第二言語／外国語のリスニングプロセスにおいてもその可能性を示唆するものであるとも解釈される。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

(理由)

当初の研究計画では、研究3年目にリスニングストレスの対処方略としてのリスニングストラテジー指導を英語科授業に導入し、それをリスニングストレスによる理解阻害効果の軽減のための手だてとする仮説実験授業を設計・実践し、その効果の検証に取り組む予定であったが、ストラテジー開発の基礎データの収集のために必要な実験被験者及び調査協力者数が当初の見込みを下回っており、基礎データが不十分であり、そのためストラテジー開発が遅れている。

4. 今後の研究の推進方策

研究最終年度にあたる平成 22 年度においては、現時点で予定より遅れているリスニングストレスの対処方略としてのリスニングストラテジーの開発とその効果の検証に取り組む。まず、心理的ストレス理論におけるストレスマネジメントの考え方を援用し、ストラテジーのプロトタイプを開発し、その効果及び利用可能性を検証する。その上でそれを随時英語科授業に導入し、学習者がそれをどのように内在化していくのか、また、効果的な利用ができていくかどうかについて、質的及び量的データを基に分析をおこない、彼らのリスニングプロセス、リスニングスタイルがどのように変容しているかを明らかにし、ストラテジーの効果を検証する。実験被験者及び調査協力者については今後も大幅増は急激には見込めないと思われるが、少人数でも検証可能な統計的検定手法を用いるなどして、データ分析の客観性・信頼性を高める努力をする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①Tokuji NORO, Debilitative Effects of “Listening Stress”: Focusing on the Use of Coping Strategies, 全国英語教育学会紀要 ARELE, 21 巻, 201-210, 2010 年, 査読有り

②Tokuji NORO, The Debilitative Effects of “Listening Stress”: Exploring Its

Mechanism by Stress-Inducing Experiment, 東北英語教育学会研究紀要, 29 巻, 115-129, 2009 年, 査読有り

③Tokuji NORO, “Listening Stress” and Its Debilitative Effects: Understanding the Circular Mechanism, 弘前大学教育学部紀要, 101 巻, 157-167, 2009 年, 査読なし, <http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/handle/10129/1826>

[学会発表] (計4件)

①Tokuji NORO, Listening Anxiety Revisited: Debilitative Effects of Stress on Strategy Use, The 44th Annual TESOL (Teachers of English to Speakers of Other Languages) Convention & Exhibit, 2010 年 3 月 26 日, 米国・ボストン市

②Tokuji NORO, Introducing “Listening Stress”: How Stress Affects Listening Comprehension, AILA 2008: The 15th World Congress of Applied Linguistics, 2008 年 8 月 29 日, ドイツ・エッセン市

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]